

共同企業体でやってきて見えた事、 組合員が参加する困窮者支援の可能性について

生活クラブ神奈川 副理事長

君島 周子



生活クラブ神奈川は地域の中で市民がたすけあう関係を広げて、いつまでも住み慣れた地域で住み続けられる社会をつくっていくことをめざしています。ソーシャル・インクルーシブな地域社会づくりに向けた2021年度の生活困窮者自立支援事業等の行政受託事業は、神奈川県生活再建支援相談事業、神奈川県家計改善支援事業、神奈川県足柄下郡就労準備支援事業・居住不安定者等居宅生活移行支援事業、座間市就労準備支援事業・ひきこもりサポート事業、平塚市就労準備支援事業・家計改善支援事業へと広がりました。いずれも地域の組合員参加や当該エリアの地域生協連携をすすめています。

就労準備支援事業において、ユニオン・NPO法人W.Co協会とともに「共同企業体」への組合員組織の参加は、2016年度にさがみ生活クラブから始まり、現在は湘南生活クラブに至り4事業となりました。各地域生協は事業主体としての明確な役割を持って参加しています。それは組合員の日常の活動を通して、事業目的や内容を地域の人や団体に伝え、就労体験実習先や多様な就労支援のあり方の開拓につながる情報提供を増やしていくことです。その背景には、組合員が地域で組合員どうしのつながりを基盤に、多様な運動を進めてきた経験と成果があります。就労準備支援事業という新たな社会的課題への取り組みで形成した共同企業体の中

で、当初からの方針の「各々が蓄積してきたノウハウと諸資源とネットワークを生かす」という点で、NPO法人W.Co協会に支えられながら、3者の一員として力を発揮し、一役を担っているのではないかと自負します。平塚市就労準備支援事業では、湘南生活クラブがプロポーザルの場に参加し、生協として参画する意義について行政に訴えるまでに至りました。

現在、さがみ生活クラブと湘南生活クラブでは、理事会が中心になり企画等の立案や参加協力、デポーの就労体験などへの協力をすすめ、緩やかに地域の組合員参加を掘り起こし、つながりから地域の市民団体や店舗、企業の協力をひろげています。市民サポーター登録や「おたすけ隊」形成も実現し、継続的な協力で利用者からの信頼を得て、専門家だけではできない多彩な“生活技術・文化フック（組合員の持つ生活技術・文化を生活困窮者支援のプログラムツールとしたこと）”の役割を担っています。地域の実情に合わせた活動はそれぞれに異なりますが、その地域に住み暮らす組合員が持っているネットワークを駆使した地域への働きかけで、地域市民との出会いや情報収集が進んでいます。生活困窮者支援を通して、自分の気づきから自分の意志で、地域で活動を起こしている人が増えていることは、まさに生活クラブが目指している“地域づくり・まちづくり”の実践といえます。



理事とボランティアさんで居場所サロンの昼食づくり。

反面活動を知る人は、取り組み地域生協のリーダーやほんの一部の組合員という状況で、関わっている人は組合員の1%に満たない状況であることが推定されますが、この秋の生活クラブの機関紙記事への反響では活動への共感が高く、地域生協・神奈川での周知活動の余地がまだまだあると実感しています。

生活クラブでは2021年度からの5か年中期計画で、生活クラブを基盤に「生活に必要な」多くの「つながりづくり」をすすめ地域ごとの「たすけあい」のネットワークを広げることを基本構想とし、“ローカルSDGsへのチャレンジが始まっています。地域性あふれる自在な事業や運動の展開が期待されますが、生活困窮者支援事業への参画を通して、自立・分散型のシステムや人々が地域で自治できるしくみが重要となり、地域（自治体や行政区）をステージにおおぜいの意志ある人々が参加していく道筋が見えてきたのではないのでしょうか。地域の組合員にどう広がっていくかは課題ですが、3年前の居場所をテーマとしたアソシエーション創出の可能性を探るアンケートで、エコプラスサポーターやコーディネーター、エコひろばリーダー、コミュニティリーダー等の9割近く

は生活クラブの活動だけではなく、地域の自治会PTAなどの活動にも参加しているという実態がわかりました。それは組合員どうしのたすけあい（共益）を基盤に、地域のたすけあい（公益）に広げていくことの潜在力や可能性の裏付けとなると分析しました。生活クラブ活動と地域活動への参加による多様なネットワークは、生活クラブ組合員がコアとなってたすけあい活動を生み出す可能性の高さを表していると捉えます。

このようなことから、今後の組合員が参加する困窮者支援の可能性も同様に高いものといえるでしょう。コロナ禍で深刻さが増し、顕在化した困窮者問題を地域の喫緊の課題として認識し、生活クラブの組織力を生かした活動をひろげることは、“ローカルSDGsへのチャレンジにほかならないからです。就労準備支援事業をきっかけに、50年来、組合員が理念として培ってきた“たすけあい・ささえあい”が、地域のたすけあい社会づくり・まちづくりにひろがっていくことを大いに期待しています。

はたらっく・ひらつかで行われた季節のイベントです。

